

船舶事故調査報告書

令和6年5月29日

運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	衝突（消波ブロック）
発生日時	令和5年8月6日 15時40分ごろ
発生場所	和歌山県和歌山下津港外港 和歌山北港西防波堤灯台から真方位212°1,100m付近 （概位 北緯34°13.6′ 東経135°06.7′）
事故の概要	遊漁船海虎は、航行中、消波ブロックに衝突した。
事故調査の経過	令和5年8月28日、主管調査官（神戸事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	遊漁船 海虎、3.6トン
船舶番号、船舶所有者等	252-26764和歌山、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、二級小型・特定
負傷者	軽傷 2人（釣り客）
損傷	船首部船底に破口
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西南西、風力 4、視界 良好 海象：波高 約1.0m、潮汐 ほぼ低潮時
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、釣り客4人を乗せて、釣りを終え帰港しようと、GPSプロッターを作動させて手動操舵により約13ノットの対地速力で東南東進していた。</p> <p>船長は、港口に向けて左舵を取り始めた際、翌日以降の天候や釣り客の予約状況が気になり、スマートフォンでそれらを確認して前方を見た際、船首方至近に消波ブロックが迫っていることに気付き、舵を右に切って機関を後進に入れたが間に合わず、本船は和歌山下津港外港所在の海釣り公園岸の消波ブロックに衝突した。</p> <p>船長は、釣り客2人が負傷していることを認め、119番通報して救急車を要請し、自力で出航地に戻った。</p> <p>釣り客2人は、救急車で医療機関に搬送され、1人は頭部打撲等、もう1人は右大腿打撲傷等の診断をそれぞれ受けた。</p> <p>船長は、スマートフォンを見ていたので、本船の針路が港口よりも左に向き、海釣り公園岸の方に向かっていたことに気付かなかったと本事故後に思った。</p>
分析	<p>本船は、航行中、船長が、港口に向けて左舵を取り始めた際、スマートフォンの操作に意識を向けて航行していたことから、針路が港口よりも左に向いていたことに気付かず、船首方至近に迫った消波ブロックに気付いて舵を右に切って機関を後進に入れたが間に合わず、消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
原因	本事故は、本船が、航行中、船長が、港口に向けて左舵を取り始め

	<p>た際、スマートフォンの操作に意識を向けて航行していたため、針路が港口よりも左に向いていたことに気付かず、消波ブロックに衝突したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 船長は、航行中、特定のことにのみ意識を向けず、周囲の見張りを適切に行うとともに操船に専念すること。